

意見交換会発言記録

【アドバイザー】

国土交通省関東地方整備局二瀬ダム管理所

城田係長

(独) 水資源開発機構 荒川ダム総合管理所

鈴木課長

司会進行 藤原 (ダム工学会若手の会実行委員会)

【司会】

荒川上流のダムを2つ見学して直接見ることによって感じることも様々あったと思う。事務所の職員様にもお越しいただいたので、質問やご意見などを出して欲しい。

【質問者1】

施工の現場で勤務しているものである。2点質問をさせていただく。

二瀬ダムでは土砂還元、浦山ダムでは清水バイパスなど両ダムとも環境にも大変気を使っているが、ダムの建設前後において環境が変わると思うが、管理する立場からどのような現象が起こりどのように対応しているのかをお聞かせいただきたい。

管理する立場から見た施工時の留意点や気をつけておいてもらいたいことがあれば教えていただきたい。

【二瀬ダム】

二瀬ダムは昭和36年に完成した古いダムである。環境面に対する考え方は現在とは全く違っており、それほど深い配慮はされていない。管理しながらでも、その時代々々の社会状況に合わせて法面保護工における在来種の播種等、配慮すべきことをやっていっている。次に施工時に考えて欲しいことであるが、ダムが出来るところは急峻な地形が多い。施工時も苦勞が多いと思うが、管理する時も平らな場所が貴重となる。施工時に所々に平らな場所があると良いと感じることは多い。また、設備関係についてはメンテナンスのし易さについて配慮したものとしてもらいたい。メンテナンスのために1ヶ月使えないなどとなるとダムの機能として損失が生じる。

【浦山ダム】

ダム建設前後における環境の変化は無いとはいえない。水の流れが変わることにより水質面でも影響が生じている。本日見ていただいた浦山ダムの貯水池でもアオコが発生している。このような場合には、選択取水設備を使用するなど配慮した操作運用を実施しており、下流のかたがたにもビラを配布するなど工法も行っている。自然環境については、ダム完

成前の２年と完成後３年モニタリングを実施している。「環境の改変が無いか」「劇的な変化がないか」といったことについては学識経験者から H15 に事後評価を受けている。これを踏まえて５年ごとにダム機能評価のフォローアップがあり、これを通して委員会に諮り学識経験者の意見を伺っている。

施工時に留意してもらいたい事項としては、設備の自動化、省力化、グローバル化である。誰でも簡単に使えるよう一般化し汎用性を持たせてもらいたいと考えている。

【質問者２】

本日の見学を通じて荒川上流の秩父地区には４つのダムがあることを知りました。これらのダムは管理上の情報共有など連携して実施していることはあるのでしょうか。

【二瀬ダム】

滝沢ダムと二瀬ダムは放流した水が「道の駅大滝」付近で合流し一つの流れとなっている。放流時の警報等情報の共有を行い連携するために打合せを実施している。

また地域振興として、ダムカードについては４ダムで連携しており、全てを集めた人には特典を付与することを実施している。これを目的にこの地域に訪れる人が増えれば地域振興になると考えている。

【浦山ダム】

水質事故などの情報については連絡網を作成して情報の共有を図っている。また、日々の管理データについては全て国土交通省へ報告し、国で情報の一元化を行っている。また、関係自治体に対しても、全てのダムから水質情報（濁りや水温など）を送っている。

【司会】

ダムも作った後の地域振興を目的として、国交省直轄と水機構のダムなど全国１２０ダム程度で作成している。手づくりカードなどレアカードもあるので、こういった面からも興味を持ってもらいたい。

以上